

Title	賀川豊彦から影響を受けた一人の韓国人牧師：姜元龍を中心にして
Author(s)	高, 萬松
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.2, 2013.1 : 2-3
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=4349
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

賀川豊彦から影響を受けた一人の韓国人牧師 —姜元龍を中心にして

高 萬松

はじめに

日本の教会と韓国教会が公式的に初めて和解のメッセージを交わした後、1967年には日本基督教団総会議長・鈴木正久牧師が韓国基督教長老会で開かれた講演会に招かれたことがある。当時、韓国基督教長老会の総会議長は姜元龍（1917-2006、かん・うおんよん）牧師であった。彼が賀川豊彦とラインホルド・ニーバーから影響を受けた痕跡が残っている。本稿では賀川に直接会った姜元龍の眼に映っている賀川の一面を中心に紹介したい。

1 戦前、姜元龍に影響を及ぼした賀川

姜元龍は韓国基督教長老会の総会議長を歴任した韓国教会の指導者のひとりである。彼の体験記である『歴史の丘の上で』において、賀川豊彦との出会いについて一章を割愛するほど、賀川を重んじている。晩年に書いたその本で姜元龍は「若い時から尊敬していた賀川豊彦先生との出会いは私に大きな感銘を与えた」と回想している¹。14歳の時に彼の親戚を通してキリスト教に接し、賀川の話聞いたという姜元龍は22歳の時に東京で賀川と出会い、交わりを持ち、戦後である1954年にアメリカのエバンストンで開かれた世界教会協議会（WCC）総会で賀川と再会したほど、姜元龍にとって賀川は「今は彼についての記憶さえ薄くなって行くが、彼が私の若き心に点けた火種は今も私の中でくすぶっている」と言っている²。

①賀川における庶民的情趣

姜元龍は賀川豊彦と1939年に会おう。その当時、賀川豊彦は51歳で著名な牧師であったが、姜元龍は外地から留学してきた貧しい学生であった。それにもかかわらず、二人が出会った最初の対話はあまりにも庶民的で、賀川の人情のある情趣を読むことができる。1939年春に明治学院に留学した

姜元龍は、すぐ賀川宛に手紙を送り、賀川が返事をし、二人の出会いが成り立った。姜元龍は賀川の家を訪ねたが、食事中であったので外で待ったそうである。次がその時の話である³。

姜：「私が〔先生に〕手紙を送りました姜元龍と申します」。

賀川：「あ、そうですか。お入りなさい。一緒に食べましょう」。

姜：「いいえ、〔先生の〕食事が終わるまで〔外で〕待っていました」。

賀川：「君が我が家で一緒にご飯とみそ汁を食べる間柄でなくば、ここに来た意味がないでしょう」。

このような対話には賀川の庶民的性格が表れている。そして挨拶を交わした後、賀川は姜元龍の名字の「姜」という字が「キョウ」と発音するということで、「あ、キョウか。あなたは昨日もキョウで、今日もキョウだね」と笑いながら冗談をしたという⁴。また、二人の間では次のような対話があった⁵。

姜：「先生が亡くなれたらどんなお葬式を望まれますか」。

賀川：「日本は私の墓にするには狭すぎる。私の死体を飛行機に乗せて太平洋にまで行って落としてくれたら良い」。

賀川の人情の溢れるユーモアであろう。

②賀川の熱情

日中戦争が勃発した後、キリスト教に対する弾圧が厳しくなって行く最中、賀川は伝道講演のために満州・朝鮮に行った。それについて、姜元龍が以下のような逸話を挙げている。姜元龍は1939年に東京に来たので、この逸話は賀川による1940年5月の満州への伝道旅行と考えられる⁶。出発前に姜元龍は挨拶しに賀川の家を訪ねた。その時、賀川健康状態は悪かった。腎臓に炎症があり、全身がむくんでいて、ハンカチで目を触ると血が

付くほどの病状であった。姜元龍はそれを心配して、賀川が講演を止めるように訴えた。「先生、旅行中に何か起こったらどうするつもりですか。旅行を止めたらどうでしょうか」。そうすると、賀川は「いや、この仕事は私が必ずやらねばならないことだ」と言った⁷。そして賀川の妻も、「彼は神様に命を委ねて生きている人です。今までも神様が生かして下さっているものであり、自分の力で生きているのではないです」と答えたようである⁸。この逸話からは、賀川の伝道に対する熱情がどれほど強かったかを理解できる。

③賀川の勇氣

賀川は度々時局講演をした。ある日、日比谷での講演のことである。姜元龍によればその講演の要旨はこうである。すなわち「日本人は小さな人種であるが、その分を知らずに巨大な中国を食べようとしている。日本がやっていることは愚かな猿の真似に過ぎない」⁹。それを聞いていた聴衆の極右派たちが叫び始めた。「やめろ！あなたは国家の敵だ」。その叫びと共に壇上に向けて何かが投げ込まれた。賀川は何もなかったように壇上で当時の「八紘一字」という歌を歌った後、極右派に向かって「諸君らはこの歌を歌う資格さえない」と断言した¹⁰。ここからは賀川の勇氣を理解できよう。

2 戦後、姜元龍に影響を及ぼしたニーバー

姜元龍の思想的背景は注目に値する。というのは彼が戦前には賀川豊彦から強い影響を受けたが、戦後にはラインホルド・ニーバーからの影響も受けていると考えられるからである。彼の記念財団によれば、姜元龍は「ラインホルド・ニーバーとティリッヒが教授として在任していたニューヨーク・ユニオン神学大学に入学し、二人の神学の巨匠から『愛と正義に基づいて中間に立つ道と人間化の道』という二つの時代的課題を確認し、それに一生を掛けた」¹¹。姜元龍はアメリカでの留

学を終え、1957年にソウルに戻り、京東教会で牧会を始めた。その後、1970-80年代になると民主化運動にも積極的に参加した。本研究所には「ラインホルド・ニーバー研究センター」がある。韓国人牧師・姜元龍とラインホルド・ニーバーとの関係について、関心が惹かれる次第である。

- 1 姜元龍『歴史の丘の上で』ハンギル社、2003年、114頁 [강원용 「역사의 언덕에서」 한길사]。
- 2 同上書、123頁。
- 3 同上書、116頁。
- 4 同上。
- 5 同上書、117頁。
- 6 隅谷三喜男『賀川豊彦』岩波書店、1995年、220頁。
- 7 姜元龍、前掲書、117-118頁。
- 8 同上。
- 9 同上書、119頁。
- 10 同上。
- 11 Cf. <http://www.yeohae.org/yeohae-front/introduction/introYeohae.asp>(2012.7.10)。

(こう・まんそん 聖学院大学総合研究所助教)